

グリーンルーフ



館蔵品誌上ギャラリー⑥
等碩「寿老人」
室町後期

No.61 (平成18年6月23日)

クロチェッティ展
棟方志功展

Topic

あつまれ！ミュージアムパーク
着任のごあいさつ
広報サポーター大募集・新職員紹介
表紙の作品

鹿児島市立美術館

〒892-0853
鹿児島市城山町4-36 TEL.(099)224-3400
<http://kagoshima.digital-museum.jp/artmuseum/>

表紙の作品

等碩「寿老人」 室町後期
紙本墨画着色・軸装 118.3×58.5cm

日本絵画の歴史には、名前とわずかな作品が知られるものの、詳しい経歴が分からない画人がいる。というよりも、そのような画人たちが圧倒的に多いのである。

ここに紹介する等碩も、その一人である。いつどこで生まれたのか、どのような人生を送り、何歳で逝去したのかなどは知るすべがない。ただし、まったく手がかりがないというわけでもない。いくつかの画人伝や画論に、彼が秋月等親の子供であり、薩摩藩主に仕え、絵は雪舟様式を学んだことが記されているのである。

等碩が本当に秋月の子供であったのかどうかは、基本資料が見出せないため真偽のほどは不明である。しかし、このような伝歴の乏しい画人について考える時、どうしても想像を

たくましくしてしまうことがある。秋月はその晩年、薩摩藩主に厚遇されているので、その子が引き続き藩主に仕えたとしても不思議ではない、と。

「寿老人」には、画面右下方に「等碩」の朱文方印が捺されている。白鹿を従えて座る寿老人の周りには松竹梅が描かれ、さらに鶴と亀も配されている。縁起の良いモチーフをふんだんに盛り込んだ吉祥図となっている。衣文や樹幹の墨線は明瞭で力強い。そのため、余白の少ない本図には濃密な雰囲気満ちている。と同時に、衣文に見られる曲線による繰り返しのパターンは画面にリズム感を添えているのである。

室町時代の後期、薩摩には秋月によって雪舟流の水墨画が伝えられた。画伝類によると少なからぬ画人が活躍していたことがわかるが、伝来する作品はきわめて少ない。「寿老人」は、鹿児島における雪舟流の様相を窺うことのできる希少な作例といえる。